

- 1、単元名 大事なことをたしかめよう「すがたをかえる大豆(説明文)」
「食べ物はかせになろうー本でしらべるー」

- 2、単元の目標

身近な食べ物についての知識を得るとともに興味を広げる。(関心・意欲)

中心となる語や文、段落相互の関係に注意をして文章を読む。(読む)(言語)

調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択したりし、書こうとすることの中心を明確にし
ながら、段落と段落の続き方に注意して書くことができる。(書く)

友だちと推敲し合うことで、よりよい文章を書こうとする。(関心・意欲)

- 3、ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

本単元は、しっかりした読み取りの学習ができるとともに、読みの学習を通して身につけた力をもとに、疑問や興味をもった事柄についてさまざまな本で調べ、集めた情報を文章にまとめる学習である。また、読み取りの学習、本を探し調べる学習、集めた情報を目的に従って文章にまとめる学習など、それぞれに大切な学習活動が含まれており、いずれの学習もおおそかにできない重要な内容を含んでいる。ただの読みの単元ではなく、情報活動の単元としての系列にも属しており、その観点から本の活用や情報の整理のしかたなどにも十分な指導がなされることが期待できる。

本単元は、説明文教材を段落やキーワードなどに注意しながら読み取る学習と、教材文の内容を参考に、自分で調べたいものを選んでそれに関する情報を集めて文章にまとめる学習から構成されている。情報を集め文章にまとめる学習としては「おもしろいもの見つけた」(三上)と同じ面をもつものである。

本単元は、身の回りにあふれている大豆やその加工品について書かれているもので、内容的には児童にも身近なものであるが、見ただけでは大豆からできているとは思われないものも多く、児童には意外性をもって知ることの喜びを得られる内容である。そのために、手立てとして大豆でできた製品を実際に用意をして興味を持たせたり、ワークシートを用意して「初め・中・終わり」の文章構成を分かりやすく提示したりして、段落構成をしやすくして取り組ませたい。大豆以外にも思いもよらぬ食品に替わる素材はないだろうか、自分も調べてみたいという気持ちを持たせていきたい。

「ひびき合う姿」としては、情報カードを元に文章を書くとき、うまくいかないところやもっと付けたいことがでてくる。自分ではどこをどう直せばよいのか分からないこともある。そこで友だちからの助言を受け、よりよい文章が書くことができれば、自分では気がつかない文章の誤りや教えてくれた友だちの良さに気づくことができると思う。助言し合う活動の中から、読み手に分かりやすい書き方や、相手の考えを聞いたり、自分の考えを相手に話したりすることは、お互いの良いところを見つけることになるのではないかと考えた。「ひびき合う姿」のために、より分かりやすく文章を書くための助言や、良いところを伝え合う活動をすることで、友だちとの関わり合いを高めながら学習ができるのではないかと考える。また、助言ができない児童でも、友だちの思いを読み印を付けることで自分も授業に参加しているという思いになれると思う。

4、単元指導計画

次時	学 習 活 動	主 な 指 導 内 容 ・ 評 価
1	1 全文を読み、大豆を使った食品を確かめる。	【関】大豆をおいしく食べる工夫について、関心をもって本文を読んでいる。(発言・観察)
	2 大豆をおいしく食べる工夫がいくつかあるか確認する。	【読】大豆を食べる工夫について、一つ一つの段落を読み、正しく読み取っている。(発言・ノート)
	4 本文を読み、全体を3つに分け、文章の構成を確認する。 5 6	【読】段落構成を読み取り、「初め・中・終わり」の大きなまとまりを理解している。(発言・ワークシート)
2	7 調べたことを文章にまとめるまでの流れをつかむ。	【関】調べたい食べ物と調べる事柄を決め、学習計画を立てている。(発言・観察)
	8 調べたい食べ物を決める。	【関】調べることに必要な本を探して読んでいる。(ワークシート・観察)
	9 分かったことを情報カードに書く。 10 11 情報の集め方について助言し合う。 【本時】	【書】大事なことを情報カードに書いている。(発言・ワークシート・観察) 【話】友だちの情報カードに助言ができた。(話す・ワークシート)
3 、	12 情報カードを整理する。 13	【関】情報カードを関連づけてまとめ、ある程度のまとまりに分けようとしている。(ワークシート・観察)
	14 情報カードのまとまりごとに文章を書く。 15 16	【書】情報カードを整理し、調べたことを事柄ごとに段落に分けて書いている。(観察)
	17 出来上がった本を読み合う。	【読】友だちの本を読み、感想を持とうとしている。(感想カード)

5、本時について

(1) 本時目標

本での調べ方を知り、調べたい食べ物についての情報を収集した友だちに、よりよくなるための助言をすることができる。

(2) 本時展開

学 習 活 動	指導上の留意点 (= 評価)
<p>1、前時の振り返りをする。 自分が調べたい食べ物の情報を集めた。</p> <p>2、本時の学習活動について知る。</p> <p>友だちが集めた情報に助言をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちが集めた情報に助言ができるところにチェックを入れる。 ・どんな助言をするのかメモをする。 ・友だちの情報に助言を伝え合う。 <p>3、助言をしてもらったところを自分なりに取り入れて、情報カードに書きたす。</p> <p>4、学習の振り返りをする。</p> <p>5、次回の予告</p>	<p>前時を振り返ることで、情報カードに情報が集まったことを確認する。</p> <p>助言ができない児童には、自分の集めた情報で自慢したいところを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>アドバイスをしようという意欲が持てる。 関心・意欲 友だちが集めた情報に自分なりの助言が伝えられる。 話す・聞く</p> </div> <p>友だちの助言で、よいところを取り入れて情報カードに付けたす。</p> <p>友だちの助言について感想を持ち、学習を振り返る。</p> <p>次回は、情報カードを整理して、段落を作ることを知らせる。</p>

(3) 本時の視点

- ・集めた情報の活用の仕方や、書き方への自分なりの助言ができたか。
- ・もらった助言を参考にしようとしているか。

6、実践を終えて

子どもたちの願いや思いを受けて、実態に応じた学習課題を作っていきたいと考えた。説明文の書き方を学び、「読む・書く・表現する」を関連させて単元を組んでいった。「書いたものをみんなに見せたい。」「自分が伝えたいものを書きたい。」という子どもの願いや思い大切にしたい。何を伝えたいのか、書かされている感がないように課題を自由に選ばせていった。食品が手を加えることでいろいろな食べ物にすがたをかえる不思議を調べ、まとめていく学習にあたり子どもたちに好きな食べ物をあげさせ、そこから調べる手がかりを見つけさせていった。本や事典、パンフレットなどを元にして食品がどのようにかわっていくか興味を持つことができた。

本単元では、調べた食べ物についての情報を収集してまとめていく段階で、うまくいったところや困っているところを互いに出し、助言し合うことでひびき合う姿が見られると考えた。座席表を用意し、うまくいったところや困っているところを書き出したが、自分と違う食品を調べている友だちへの助言があまり出なかった。説明文の書き方をもう一度振り替えさせたり、同じ食品を調べているどうして助言し合い全体に広げていく方法をとったりした方がよかったと思われる。また、視聴覚機器(OHC)を用意していたので文章を書く上でどんなところに困っているのか、うまい表現ができたのかを実際に見せて助言し合うようにさせると、もっと活発な話し合いができたかもしれない。自分で情報カードを書いて分からないところや、うまくいかないところをみんなに教えて欲しいという子どもたちの思いから出た本時の課題だった。子どもどうして助言し合うには、どんな情報カードを作ったのか分からないと的確な助言はできなかったと思われるので、視覚に訴える物や小人数での話し合いから始める方がよかった。本を読み、そこから自分に必要な情報を書き出し、自分なりの考えを持って作文にしていく学習だったが、「書く」学習に対しては、皆自分の思いを素直に表現出来るようになってきたと思う。